

1. 単元名 「むかしからの あそびを たのしもう」

2. 単元の見目

- ・ 昔からの遊びの楽しさ、それを通しての地域の方や友達との関わり方の楽しさに気付く。
(知識・技能)
- ・ 自分が工夫したり、上達したりしたことを振り返り、友達や地域の方に伝えたり、話したりする。
(思考・判断・表現)
- ・ 伝承的な遊びに興味を持ち、地域の方との触れ合いや関わり合いを楽しむ。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、地域のお年寄りなどから昔の遊びを教えてもらい、交流したり、工夫して遊んだりすることができるようにする。

本校に日頃から地域ボランティアとしてご協力いただいている方を学校に招き、昔の遊びを教えていただいたり、共に遊んだりすることで、昔からの遊びの楽しさに気付いたり、地域の方や友達と関わり方の楽しさに気付くことができる。また、練習をしてできるようになった姿を校内や地域の方に見ていただく機会を設けることで、自分が工夫したり上達したりしたことを振り返ったり、友達や地域の方に伝えたり、話したりする活動を行うことができる。

さらには、伝承的な遊びに興味を持って、地域の方との触れ合いや関わり合いを楽しむことを通して、人とのつながりの心地よさや、関係を深めるコミュニケーションのスキル向上も図ることができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、校内に常設しているけん玉やお手玉を休み時間などに手に取り、昔の遊びに触れる姿が見られる。また、学級文庫にあるあやとりの本を見ながら、「やってみよう。」と興味を持っている児童もいる。しかし、祖父母と同居している児童は1人もおらず、家庭において昔の遊びの話や話を聞いたり、体験したりする機会は少ないと思われる。

本校の地域の方々は大変協力的であり、快く教育活動に協力や支援をして下さることが多い。運動場の草刈りや登下校の見守りなども積極的に行っていただいている。2学期末には、校門を飾るための門松を作って下さり、低学年の児童は共に作業を行った。そのような体験からも、地域の方に親しみを抱いている児童もいる。

本単元を通して、この時期にさらに地域の方と関わり方の時間を持つことで、昔からの遊びを楽しむ活動ができれば、活動への意欲もより高まり、この単元の意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず学校や家にある昔遊びの道具を使って、子どもたちだけで遊ぶようにする。そして、自分たちだけでは上手く遊べないと気がついたり、もっと上手にできるようになりたいという気持ちが高まったりした時に、「上手な人に教えてもらおう」という活動を示す。

そして、地域の高齢者などから、昔から伝わる遊びや自分たちの知らない遊び、あまり経験したことがない遊びの楽しみ方や上手なやり方を教えてもらう交流会へと発展させていくようにする。

さらに、地域の方の実践やできるようになった友達の姿を参考にさせ、自分も挑戦してみたいという気持ちを高めたい。地域の方との交流活動において、感謝の気持ちや尊敬する気持ちなどを育てたい。また、コミュニケーション力を培うためにも、積極的に関わることや感謝の気持ちをもてるように働きかけるようにする。

次に、練習してできるようになった昔遊びを学年や他学年に向けて発表をする機会を設け、お

互いを認め合って仲間意識を深める活動にもつなげたい。その上で、再び地域の人を招いて見てもらったり、もう一度一緒に遊んでもらったりできるようにしたい。できたことや地域の方にほめてもらった点などを記録しておき、ほめたり、励ましたりして、自信がもてるようにする。

そして、お世話になった地域の方に感謝の気持ちを持ち、手紙やカードを書く。一緒に遊びを楽しんだり、教えてもらったりして嬉しかった気持ちを、お礼の手紙やメッセージカードで届けるようにする。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性・・・地域に暮らす方が、子どもたちの成長を見守り、協力しようという思いを持ってくれているということ。一緒に遊ぶことで楽しい時間を共有することができるということ。

公平性・・・みんなと遊ぶことを通して、自分だけが楽しむのではなく、友達と仲良く楽しく遊ぶためのやりとりができるということ。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

コミュニケーションを行う力

校内の様々な学年の児童と昔遊びを通して共に遊ぶ活動を行ったり、地域の方に昔遊びを教えってもらう交流会や発表会を行ったりして、自分の思いや考えを伝えようとする。

進んで参加する態度

昔の遊びについて知って、その遊びを仲間や地域の方と楽しんだり、遊びを上達させたりするために、地域の人に話を聞いたりする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代内の公正

自分たちだけでなく、他学年の人や地域の人など同じ時間を過ごす皆が安心して過ごせる関係づくりが大切である。

人権・文化を尊重する。

これまでに受け継がれてきた遊びの良さに気づいたり、楽しんだりする。

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

はじめはできなかった遊びができるようになったり、上達したりすることで、達成感を味わい遊びを楽しむ。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①昔からの遊びの楽しさ、それを通しての地域の方や友達との関わりの楽しさに気付いている。	①自分が工夫したり、上達したりしたことを振り返り、友達や地域の方に伝えたり、話したりしている。	①伝承的な遊びに興味を持ち、地域の方との触れ合いや関わり合いを楽しんでいる。

5. 単元の指導計画（全6時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	<p>○昔の遊びについて知り、実際に遊んでみて、その楽しさや面白さを味わったり、今の遊びとの違いを考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お正月に家族ですごろくをやったよ。 ・休み時間に、学校のけん玉に挑戦したことがあるよ。 ・テレビで竹とんぼを見たことがある。 ・けん玉って、やってみると難しいね。 ・こまをうまく回せないな。 ・おじいちゃんは竹馬を作ったことがあるんだよ。 ・おばあちゃんに手作りのお手玉をもらったよ。 <p>○地域の高齢者などに、昔から伝わる遊びや自分たちの知らない遊びを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんをあやとりが上手だよ。 ・近所のおじさんは凧揚げが上手だよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが今、よくする遊びを思い出させる。 ・昔の遊びで知っている遊びはないかたずねる。 ・まず、学校や家にある昔遊びの道具を使って、子どもたちだけで遊ぶようにする。そして、自分たちだけでは、うまく遊べないと気付いたり。もっと上手になりたいといった気持ちが高まったりした時に、上手な人に教わってみようという活動を示唆して、交流会へと発展させる。 ・今の遊びと昔の遊びの違いについて考えさせる。今の遊びと昔の遊びそれぞれの良さについても考える。 ・自分の祖父母や身近な高齢者に子どもの頃に楽しんだ遊びについて、尋ねてみるよう促す。 ・昔の遊びは、身近にある素材が用いられていたり、修繕しながらくり返して使えるものが多いことに気づかせる。同時に今の遊びは、プラスチックでできた物が多いことにも気づかせ、考えさせる。 ・地域の方に依頼をし、昔遊びを教えてください交流会を開催する。 ・地域の方の実践や、できるようになった友達の様子を参考にさせ、自分も挑戦してみたいという気持ちを高める。 ・交流活動をもとに、感謝の気持ちや尊敬する気持ちがもてるように働きかける。 	<p>△ア1 （知・技） △ウ1 （主体的）</p> <p>△ア1 （知・技） △ウ1 （主体的）</p>
2	<p>○ 練習して上手になった昔遊びを発表し合ったり、地域の人に見てもらったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手にできるようになったよ。 ・ちがう（友達）遊びも楽しそう。 ・ひざを曲げるとうまくできたよ。 ・何度も練習してできるようになったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や他学年に向けて発表をする機会も設け、お互いを認め合っ仲間意識を深める活動につなげたい。その上で、再び地域の人を招いて見ってもらったり、もう一度一緒に遊んでもらったりできるようにしたい。 ・できたことや地域の方にほめてもらった点などを記録しておき、ほめたり、励ましたりして、自信が 	<p>△イ1 （思考表）</p>

	<p>○お世話になった地域の方に感謝の気持ちを持ち、手紙やカードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none">・教えてくれてありがとう。・家でもやってみます。・また教えてください。・また学校に遊びに来て下さい。	<p>もてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none">・一緒に遊びを楽しんだり、教えてもらって嬉しかった気持ちを、お礼の手紙やメッセージカードで届けるようにする。	<p>△イ1 (思考表) △ウ1 (主体的)</p>
--	--	---	--